

ピタ サンダ ス 英国の写真家

:

明:特 な旅がいかに彼の人生を え、彼がムスリムになったかについて。

目:[事新改宗者ムスリムの逸 著名人](#)

より: ピ タ サンダ ス

日19 Jan 2015

集日 19 Jan 2015



ピタ サンダ スは、1946年にロンドンで生を受けました。彼はプロのカメラマンとしての を60年代に 始し、ボブ ディラン、ジミ ヘンドリックス、ドアズ、ザ フ 、ロ リング ス ト ンズなどの音 界のビッグスタ たちを撮影してきました。1970年の 半、サンダ スの 心は内面世界に及び、インドでの精神修行を て、その美しい精神性に して彼の心に深い印象を刻んだイスラ ム世界へと旅しました。英国に 国した彼は、イスラ ムに改宗し、アブドル アズィ ムという名を与えられました。1971年、彼はムスリムの年に一度の巡礼である、ハッジの 礼を撮影するという特 な 会が与えられました。それらの写真は稀少性を められ、サンデ タイムズ 、オブザ バ などの大手出版物に されました。

ピタ サンダ スにとって、信仰と写真は共に、彼の精神性の大きな部分を占めてきました。真理の本 を捉えるための追求が、カメラを片手に持った彼をイスラ ム、そしてカ

アバ 殿の扉へと いたのです。音 界における最も有名な偶像から、イスラ ム世界における最も神 な 所まで、ピ タ サンダ スの旅は、レンズのピントを合わせる以上の多大な 化 がもたらされました。

“音 界における殆どの有名人の写真を撮った私は行き まりを感じ、精神世界にのめり むようになりました。私は何か ったことがしたくなり、インドに行くことにしました 。私は荷物をまとめ、 を求めて出 しました。やがて私は一人の を つけ、彼はヒンズ 教徒でしたが「ムスリム的な性 」の持ち主でした。私は彼のもとで半年 に渡って 事しま したが、英国に ると友人の一人がムスリムになっていました。また、一部の旧友たち は麻 やアルコ ルに溺れていました。それはあたかも神が「どちらの方向に むのか？」 と私に いかけているかのようでした。

“私はイスラ ムについては殆ど知りませんでした。色んな を たり、 々な物事が起きて いました。そして私はあまり知 のないままムスリムになりました。当 の私は24 で、ムスリムになってから3ヶ月以内に私はハッジに行くことにしました。お金はありません でしたが、 意を固めました。私のムスリムの先生がその意 を持っており、私も行き たいと思ったからです。ある人物から航空券をもらうことになり、私は に行くこと になりました。カアバ 殿で、私は先生が亡くなったという知らせを受けました。

1971年当 、ハッジにおける写真撮影は めて稀なものでした。ピ タ サンダ スは特 な 可を 得て 地の撮影を されました。それは今でも彼を させます。“欧米人がハッジの写真を 撮るということはとてもユニ クなことでした。私はジェッダからマッカの政府 を渡り き、ようやく私にその 可を出してくれる 限を持つ人物にたどり着きました。当 はまだ そういった 任を取ろうとする人は少なく、また写真撮影に しても忌避される 潮があり ました。新改宗者がそれをするとなると、なおさらでした。しかし、この人物は私を に信 してくれ、私に 可を出してくれる地位にあったのです。”

ピ タ サンダ スにとり、写真はイスラ ムの精神をとらえる本 的な方法の一つでした。そ れに する彼の努力を 明するには、ウルドゥ の 人の言 が をよぎります。“マディ ナの真 理を るには、 だけでは事足りないのである。それには洞察力が必要なのだ。”

こうした洞察力を持つこと自体は大きな使命ではないかのように、ピ タ サン

ダースはそれを他者へと伝えようとしています。彼は去30年に渡って、この地球上から急速に姿を消しつつあるイスラム社会の姿を捉えてきました。彼によるこのプロジェクトの一つには、時代の大きな学者や人たちの写真アルバムの纂があります。彼が金を募って出版しようとしている2つのボリュームには、始めて写真を撮られる人々や、近年になり亡くなった人々などが含まれます。

ピタ サンダースについて

ピタ サンダースは、イスラム世界における写真家の先者の一人として全国的に知られています。

彼は1960年代中に写真家としての活動を始め、ロンドンで隆っていたロックンロールシンをカバーしていました。音楽界において在では的なアーティストたちを撮影し、それらはコレクターたちによって作であるとされています。

1970年代半、サンダースの感心は内面世界へと向かい、それは彼をインドへ、そして最終的にはムスリム世界への精神性の探求へと導いてきました。彼はその期を通してフィルムに、貌を遂げつつあるイスラム社会の最も面影を印象的な形によって残しています。サンダース自身によるイスラム文化への深い思い入れと着の念は、ほんの小さな写真家たちとしか触れ合うことのなかった人々や地域との密なコンタクトを果たしています。

彼は述べます。“私の作品は、常に私自身の人生の一部でした。”

“写真撮影とは、自分自身と世界について学ばせてくれる素晴らしいプロセスです。それは神からの贈りものなのです。それは美しいを追いかけて、その刹那を捉えるようなものです。”日本人の美学家、河添氏は言います。“それらの写真は極めて、外れて美しいものです。”

米国人作家のマイケル スギッチ氏は言います。“ピタ サンダースの作品の重要性は小さくはないものだ。”

“彼はイスラム世界へと渡ってカバーし、そこにおける事情通として、理路整然とした

作をこなす 在活中の唯一の写真家である。彼による、その文化への深い理解と申し分なき精神性への配から、それまでは事上いかなる欧米人も撮影し得なかった所や人々へのアクセスを可能としている。彼は消えることのない、的で美しく、特な代のかで魅力的な文化のを残したのだ。”

また、このような引用もあります。“彼は被造物そのものの精神的美しさを捉えたのだ。”

サンダスの写真はタイム、パリス マッチ、オブザ バ、サンデ タイムズ、アラムコ ワールド、そしてロンドンに点を置く アラブニュース のアル マジャッラなどの多くの国的な出版物にカバ スト リ として されています。

彼によるマッカ マディ ナ2大 都の 密な写真には、大きな需要があります。

彼の会社であるピ タ サンダ ス フォトグラフィ リミテッドでは、旅行 ロケ スタジオ写真の撮影、また12万のスライドを含むライブラリ、そして美 プrintの制作を行っています。

今年には彼による初の写真集「In The Shade of The Tree (木の影の下で)」は出版されます。他にも中国のムスリムを 材にしたものを含む、3 が 作中です。

ピ タ サンダ スの本

(木の影の下で: ムスリム世界における写真の旅) 」

脚注:

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/938>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。